

いざという時のトイレ 各家庭の備えは十分ですか？

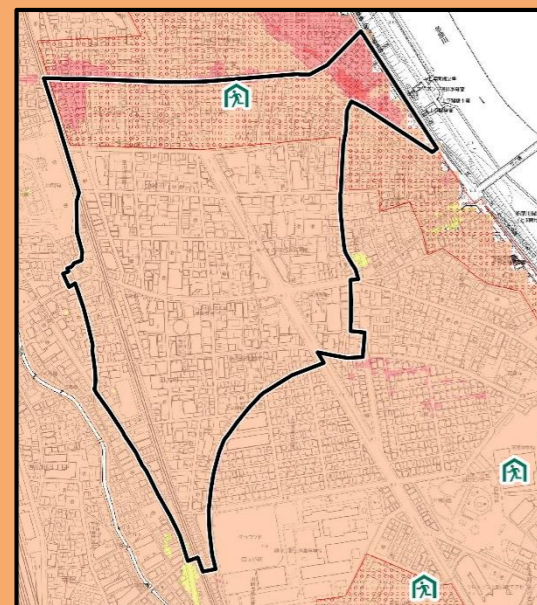
水や食料は用意しているけど、トイレのことまで考えている人は少ないのではないのでしょうか。過去の災害では、排水管が壊れて2週間以上トイレが使えないことがありました。また、排泄物が液状のままだとごみとして回収できません。ただでさえ大変な災害時、少しでも快適で衛生的な生活を送れるように、トイレの備えも見直してみてください。



災害時に必要なトイレ用凝固剤の数を計算してみましょう！

家族の人数	平均的な1日あたり トイレの回数	日数	必要な凝固剤の数
<input type="text"/>	5回	14日~	<input type="text"/> 回分

※2週間分（14日分）以上の確保がおすすめです



上平間の洪水ハザードマップ。赤で囲われた範囲が家屋倒壊氾濫想定区域です。標準的な木造住宅の場合、倒壊や流出の危険があります。

上平間で想定されている災害

多摩川に近いため、風水害の備えが必要

上平間は多摩川に近く、風水害も心配される地域です。多摩川が氾濫した場合には、10m程度まで浸水が予想される地域もあります。また、一部では強い流れによって家が倒壊したり、護岸が侵食されて流される可能性のある地域にあたります。内水氾濫は最大で1m程度まで浸水が予想されます。浸水によって道が冠水し、避難所や安全な場所までの避難が困難な場合があります。災害が発生してからの避難ではなく、事前避難を心掛けましょう。

令和5年度の活動について

令和5年度は、防災アンケートやまち歩きなど、まずは地域の状況を把握していくことから始める予定です。皆様のご協力よろしくお願いたします。

上平間第一町会 防災まちづくり



上平間第一町会の防災活動

こんにちは、上平間第一町会会長の田口です。上平間第一町会では、今年度から3年間、川崎市の支援を受けて防災まちづくりを進めていきます。防災まちづくりは、消火活動などの防災訓練や、資器材の確保、安全な避難路の確認といった活動まで、防災を主な目的としてさまざまなコミュニティ活動を行い、災害に強いまちづくりを目指していく地域活動です。

上平間にお住まいの皆様も、ここ数年大きな地震の揺れを感じたり、激しい豪雨に見舞われるなど、これまでにない災害の危険を感じている方も多いと思います。いざ災害が起きたとき、消防や救急はすぐに駆け付けることはできません。まずは自分の身は自分で守り、次には隣近所の人と助け合うことが必要です。防災まちづくりを通じて、地域の助け合い（共助）を進めていきたいと思っています。



「町会の皆さまの協力により、防災を意識したまちづくりに取り組み、地域のコミュニティを高め、いざという時にはご近所同士で支え合える地域にしていきたいと思っています。」（田口会長）

全国各地で実施される防災まちづくり

過去の地震災害では、多くの人が近隣の人たちによってガレキの下から助け出されています。また、東日本大震災では、市町村職員が被災し、被災者を支援するはずの行政機能が麻痺してしまいました。こうした実際の災害経験から、自分自身を守る『自助』や地域コミュニティによる助け合いの『共助』が強く認識され、地域の特色に応じたさまざまな活動を行う防災まちづくりが全国の自治体で実施されるようになってきています。

日本各地で起きる激甚災害

1	2	3
4	5	6

①巨過市場大規模火災。令和3年に北九州市のアーケード街で発生。同年4月、8月と短期間で2度火災が起こった。／
 ②糸魚川市大規模火災。平成28年12月昼前に発生し、翌日の夕方の鎮火まで約30時間続いた火災／
 ③令和元年東日本台風(台風19号)。市内の冠水した道路の様子／
 ④関東大震災時の横浜の様子。1923年の発災から今年で100年目を迎える。昼食時に発災したことや、強風などから大規模火災に発展し、大きな被害をもたらした。／
 ⑤熊本地震。平成28年4月14日に熊本県と大分県で相次いで発生した地震。震度7を観測する地震が4月14日夜および4月16日未明に発生した。／
 ⑥令和元年東日本台風。川崎市側から見た多摩川の様子



「備えていたことしか、役には立たなかった。
 備えていたことだけでは、十分ではなかった。」

(国土交通省 東北地方整備局 (2015) 『東日本大震災の実体験に基づく 災害初期指揮心得』より)

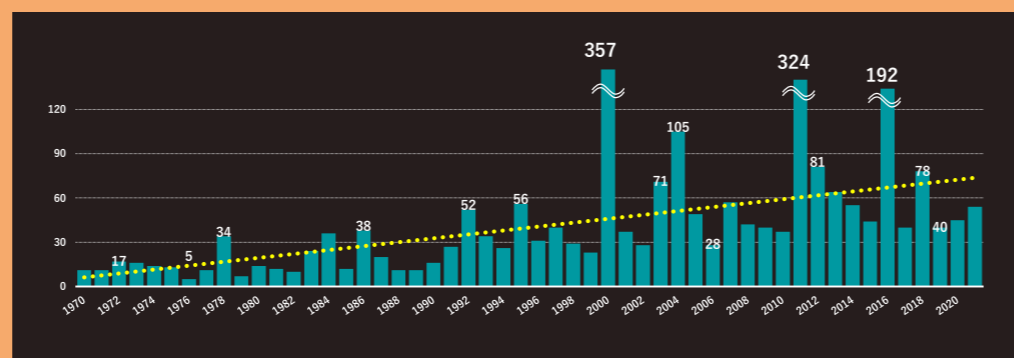
平成23年の東日本大震災、平成28年の熊本地震、そして5月に石川県で起きた震度6強の地震など、日本各地で激甚災害が続いています。関東地方では、近年大きな地震被害は起きていませんが、3年前の令和元年台風19号のときには、川崎市でも内水氾濫が起きています。激しい雨風に、あらためて自然災害の怖さを直接肌身に感じた方も多いのではないのでしょうか。

数字で見る災害

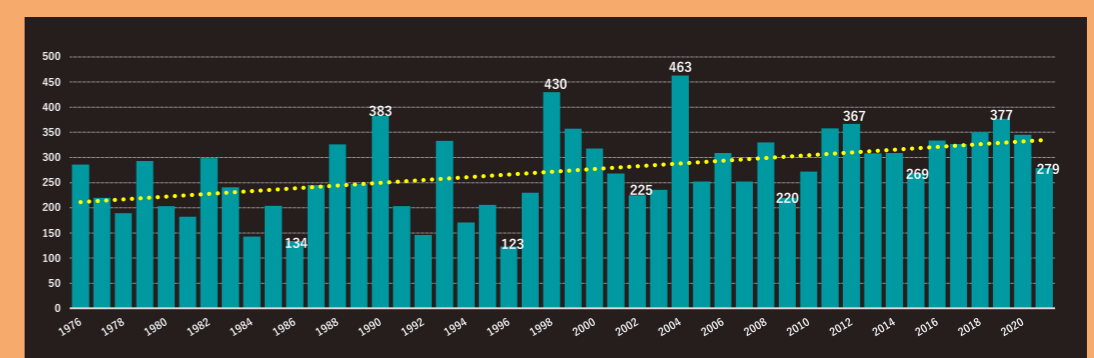
現在の日本は内陸地震の活動期に入っており、震度4以上の地震発生件数がはっきりと増えているのがわかります。また、ゲリラ豪雨の発生件数も増える傾向にあり、今後も気候変動の影響からさらにリスクが高まると予測されています。

※黄色い点線は近似する直線

震度4以上の地震発生件数の推移(1970年～2021年)



ゲリラ豪雨発生件数の推移(1976年～2021年)



出典元：①、北九州市よりご提供
 ②、「平成29年消防白書(消防庁)」内 糸魚川市消防本部提供写真
 ④、横浜中央図書館所蔵写真
 ⑤、(一財)消防防災科学センター「災害写真データベース」